

# カウンセリングのお作法 第36回

CON

Counseling Office Nakajima

カウンセリングオフィス中島 中島(みずとり)弘美

## ～家族面接初回の確認 来所メンバーと面接間隔～



初回面接の後半では、カウンセラーと家族が、今後の面接の進め方について、話し合いを確認する内容があります。今回は、それらのなかで「来所するメンバー」や「面接の間隔」について話します。

### 家族のうちの誰が来所するか

家族初回面接の終盤になると、次回以降の面接について、来所メンバーはどのようにしていくか、家族の思いとともに確認をすることになります。

初回面接は、家族全員が出席することもあります。例えば、父親の参加がむずかしく、はじめは母親だけの来所ということがあります。あるいは、両親が来所し、子ども本人が来所していない場合も多いです。今後もいやがって来所ができない、あるいは、初回カウンセリングの様子を説明すれば、来所できるかもしれないなど、二回目の面接では家族のうちのだれが面接に参加するかなどを打ち合わせます。

家族療法が日本に導入された1980年代は、同居している家族全員で出席するというスタイルが主流で、予約申し込み時に、全員参加を強く求める傾向があり、家族合同面接などという表現もされました。しかし、最近の家族面接は、同居する家族だけでなく、親族

や関係者を視野に入れた、システムに対する支援や介入を行うので、まずは、参加できる人、動ける人が面接に参加することに重きが置かれるようになりました。申し込み時点でも、来所できる人がお越しく下さい、二回目以降はどなたに参加していただくのが良いのか、面接の中で決めていきましょうと伝えます。

そのため、初回は母親や父親のみ、両親の面接、時には祖父母のみの面接などまちまちです。意欲的に参加されている人が話し合いをして、今後どのようなスタイルが自分たち家族にとって適しているのか意見交換をします。次回は、むずかしいけれど三回目ぐらいの面接でご本人に来てもらえるようにしましょうなど、参加メンバーで考えていきます。

出席がむずかしいと考えられる場合は、カウンセリングに通っていることを親から子どもに伝えているかどうか、伝えていない場合どのように伝えるのが子どもにとっても両親にとっても良いのかなど、それぞれの家族が直面しているできごとを確認めます。

視点を変えて検討することもあります。それは、誰の参加が適切であるかという点よりも、むしろ、家での課題に取り組むことが重要であると、家族に置かれている状況のなかで何が優先なのかを確認します。だれが参加するかよりも、次回の面接までのどのような点について注目して生活をするかという、課題重視です。

#### 当日の来所メンバーの変更の場合

カウンセラーと家族の双方が了解しておくべき点として、二回目以降の予約日当日に、来所メンバーに変更がある場合は、事前に連絡をしてもらうことなどを伝えます。たとえば、初回面接は両親が参加されたにもかかわらず、何かの事情で急に、お二人がそろわない状況が起きてしまった場合は、面接日時を改めて取り直してもらう場合もあると、事前に伝えます。家族カウンセリングに継続してだれが出席するということの重要性を知っていただきます。

ご本人について、家族から間接的に話をうかがう場合に比べると、直接、お会いする方が理解できることも多々あります。子どもさんの参加は大歓迎です。しかし、両親が続けて来所されることで、夫婦が歩調をあわせるができるため、子どもへの対応に効果が期待できるという面もあります。

#### 面接の間隔

もうひとつの項目は、次の面接日時を決めることです。

来所した家族は、次回の予約日時を決めようとするまでに、面接の経過のなかでさまざまな思いをめぐらします。今後もカウンセリングを継続する気持ちになっているのか、あいまいな気持ちなのか、それぞれのメンバーがそのカウンセリングに対して、評価をします。

カウンセラーは、「次回、お会いする日にちについてですが」といいながら、どのぐらいの期間をあけてカウンセリングを行うのかについて説明します。

面接の間隔は、事前にパンフレットや申し込み時のインテイクで、説明済みです。とても急いでいて、詰めて面接をする場合は、1週間から10日に1回の面接がひとつの目安になりますが、多くの場合2~3週間に一度ぐらいの間隔が多く、状況が安定すれば1か月に1回、さらに安定すれば、間隔をあけていくことになります。

例えば、子どもさんのことで来所されたご両親との場合、次の日時を決めるときは、家族それぞれの予定とカウンセラーの空き時間などから、調整します。

次回の予約を決めることが初回面接ですんなりまとまることもあれば、ご家族の方から、「このあとについては、ちょっと考えます、まだ予定がわからない」などの反応がある場合もあります。

また、相談内容によってカウンセリングの効果がむずかしいと考えられる場合は、

「まずは、5回、面接をしてみましょう。すると全体像がわかります。そのあと継続することで効果が見込まれるのか、その時点で、改めて考えるというのはどうですか」

という提案をして、治療契約をすることもあります。

### 予約の変更ルール

予約日時を決めるときには、キャンセルのルールもあわせて説明します。相談機関によってキャンセル料の発生は異なると考えますが、どの時点でキャンセル料が発生するのかを伝えます。とはいえ、ご家族に特別な事情や緊急の状況が発生することも確かなので、できるだけ当日のキャンセルは避けて、前日までの連絡をお願いし、予約変更のルールを理解してもらいます。

このように、家族面接を継続していくためには、初回で了解していただく項目が多く、少し窮屈な思いがあるかもしれません。実際に来所されるご家族は、このようなルールを了解し、守っていただいています。